

財 政 援 助 団 体 等 監 査 結 果 報 告
〔 神 戸 高 速 鉄 道 株 式 会 社 〕

神戸市監査委員	櫻 井 誠 一
同	荻 阪 伸 秀
同	山 田 哲 郎
同	坊 やすなが

地方自治法第 199 条第 7 項の規定に基づき実施した平成 25 年度財政援助団体等監査について、同条第 9 項の規定によりその結果に関する報告を次のとおり決定した。

1 監査の対象

神戸高速鉄道株式会社（以下「会社」という。）における出納その他の事務で、主として平成 24 年度執行の事務

2 監査の期間

平成 25 年 8 月 28 日～平成 25 年 12 月 20 日

3 監査の方法

監査は、出納その他の事務が法令等に基づき適正に行われているかについて、関係書類の調査とともに、関係職員に対する質問等の方法により実施した。

4 団体の概要

(1) 設立の趣旨

会社は、神戸市内を起、終点とする阪急電鉄株式会社（以下「阪急電鉄」という。）、阪神電気鉄道株式会社（以下「阪神電鉄」という。）、山陽電気鉄道株式会社（以下「山陽電鉄」という。）、神戸電鉄株式会社（以下「神戸電鉄」という。）の 4 電鉄（以下「4 電鉄」という。）を結び、相互直通運転を行い、市内の交通の不便を解消することによって、京阪神と播州工業地帯及び西北

神地区の輸送力を増強し、各地域と産業の発展に寄与することを目的として、昭和 33 年 10 月に設立され、地方鉄道法に基づき昭和 43 年 4 月に営業を開始した。

なお、昭和 62 年 4 月の鉄道事業法の施行に伴い、会社は自らが所有する線路を他の鉄道事業者に専ら使用させる第 3 種鉄道事業者となり、平成 22 年 10 月には資産の保有と借入金の返済に特化した事業形態に体制変更している。

(2) 本市との関係

出資

会社の資本金は 20 億円であり、神戸市（以下「本市」という。）は、5 億円（出資率 25.0%）を出資している。なお、本市以外の主な出資者は、4 電鉄である。

財政援助

(ア) 補助金

平成 24 年度は、都市鉄道利便増進事業として国の認定を受けた阪神三宮駅改良事業に本市負担分として 6 億 3,200 万円のほか、鉄道駅舎エレベーター整備資金利子補給で 66 万円の補助金を交付している。

(イ) 貸付金

北神急行電鉄株式会社が保有する鉄道施設の購入資金として平成 14 年度に 50 億円の長期貸付を行い、平成 24 年度に 21 億円が償還されている。

職員数

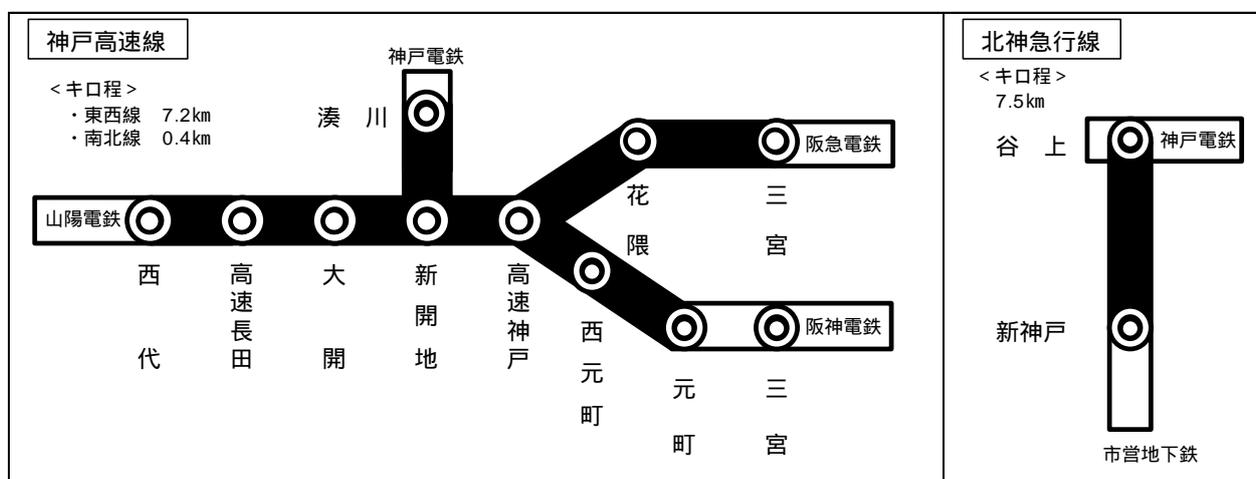
平成 24 年度末における職員数は 3 人であり、本市派遣職員はいない。

(3) 事業の概要

会社の所在地は、中央区多聞通 3 丁目 3 番 9 号神戸楠公前ビル 4 階である。

会社の路線図は、図 1 のとおりである。

図 1 路線図



(注) 黒色部分が会社の保有する線路である

会社の事業の概要は以下のとおりである。

神戸高速線

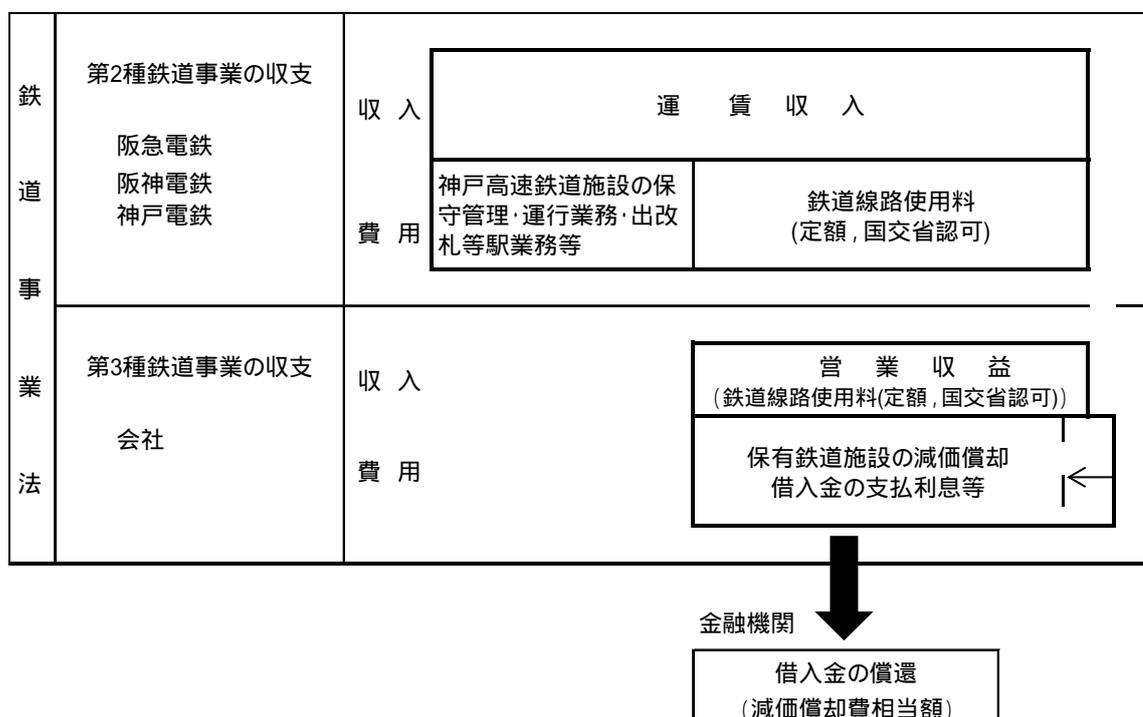
昭和 63 年 4 月に第 3 種鉄道事業者となった後も、会社は第 2 種鉄道事業者から施設の保守管理や運行管理、駅業務の委託を受けるなど収入費用の計上方法は代わったものの、従来と実質的にはほぼ同じ同線の経営リスクを有する運営体制を続けた。このため、輸送人員の減少、阪神淡路大震災による長期の休業等で収入が減少する中、震災復旧や安全対策費用の増加により、収支はさらに悪化することとなった。

このような中、会社は経営改善を行うため、平成 22 年 10 月から資産の保有と借入金の返済に特化した事業体制となった。以降は、定額の鉄道線路使用料を収受し、これにより鉄道資産の減価償却費、借入金の支払利息等の経費を賄い、借入金の償還等を行っている。

また、会社の鉄道資産の修繕・更新など保守管理や運行業務、出改札等駅業務等の運営は第 2 種鉄道事業者が行い、費用も第 2 種鉄道事業者が負担している。

なお、収支構造は図 2 のとおりである。

図 2 神戸高速線の収支構造



(注1) 平成 22 年度に策定された長期収支計画では、減価償却費及び支払利息の漸減に伴い、平成 33 年度に単年度収支がプラスに転じ、平成 61 年度に借入金の全額返済、約 29 億円の繰越利益が予定されている。

(注2) 阪神電鉄は、高速神戸 - 西代間の運転業務を山陽電鉄に委託している。

北神急行線

阪急電鉄，本市，兵庫県から融資を受け，北神急行電鉄株式会社（以下，「北神急行電鉄」という。）より北神急行線の鉄道施設（トンネル，線路，電気設備等）を買い取り，平成 14 年 4 月より第 3 種鉄道事業者として，第 2 種鉄道事業者となった北神急行電鉄に鉄道線路を使用させ，鉄道線路使用料を収受している。

なお，収支構造は図 3 のとおりである。

図 3 北神急行線の収支構造

収 入	鉄 道 線 路 使 用 料			
支 出	減価償却費	支払利息	管理費	諸 税
収 支	0 （ゼロ）			

- （注1）北神急行線の鉄道線路使用料は，北神急行線にかかる「減価償却費」や「諸税」等により算出するが，会社の損益収支が「0」となるように設定されている。
- （注2）「減価償却費」は北神急行線買い取り時に融資を受けた阪急電鉄等からの借入金の元金返済に充当されるため，減価償却額と借入金元金返済額とが同額になっている。なお，借入金返済額が不足する場合は，阪急電鉄が資金を提供することになっているため，会社に負担は生じない。
- （注3）会社は，北神急行線の鉄道施設を 20 年間保有した後，残資産及び残債務を全て阪急電鉄に引き継ぐことになっている。

鉄道駅舎等の改善および建設ならびにその賃貸

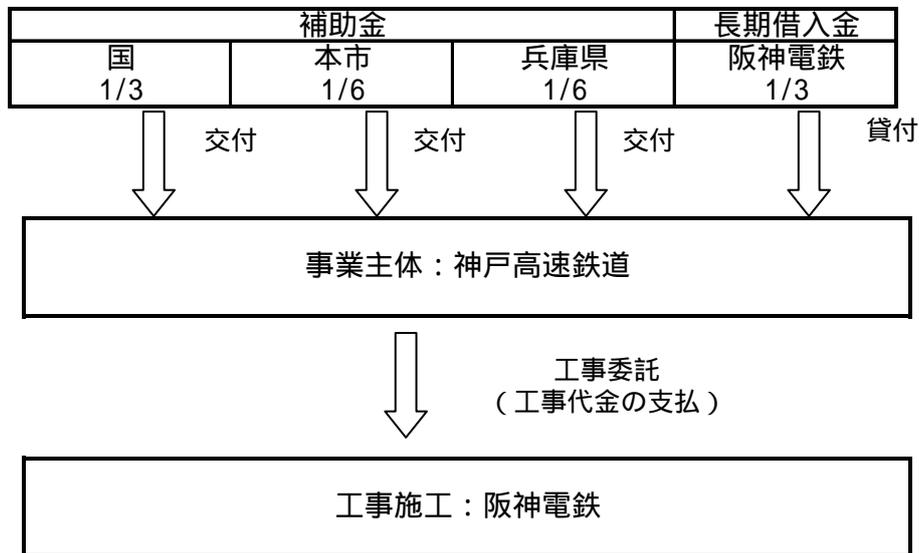
都市鉄道の既存ストックを有効活用して速達性の向上及び駅施設の利用円滑化を図る「都市鉄道利便増進事業」として平成 19 年度に着手した阪神三宮駅の改良工事は，国，本市，兵庫県から補助金の交付を受けて，平成 24 年度に完了し供用を開始している。

また，自由通路の設置などの都市側の事業と駅ホームの拡幅や駅舎の橋上化などの駅改良事業を一体的に行う「鉄道駅総合改善事業」として平成 23 年度に着手した阪神甲子園駅の改良工事は，国，西宮市，兵庫県から補助金の交付を受けて，平成 28 年度の完成を目指している。

なお、阪神三宮駅改良工事の資金の流れは図4のとおりである。

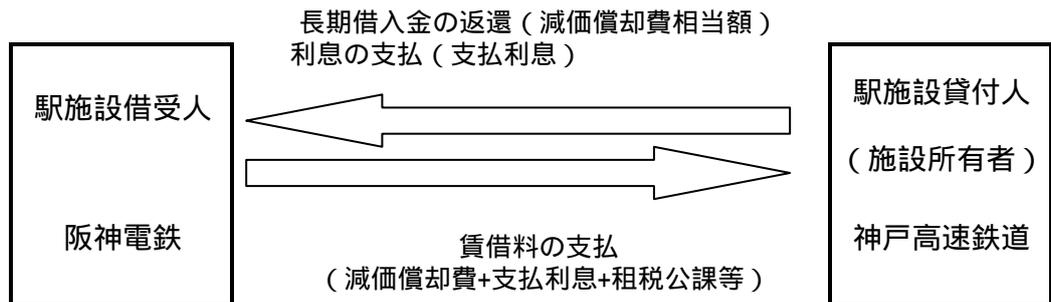
図4 都市鉄道利便増進事業（阪神三宮駅）における資金の流れ

1. 建設工事期間中



(注1) 受け入れた補助金は貸借対照表の「預り金」に計上される。なお、駅施設の固定資産の計上に際しては、工事費から補助金の額を控除する圧縮記帳を行っている。

2. 工事終了後（駅施設供用開始時）



土地家屋の賃貸及び駐車場の経営

花隈ビル、阪急三宮駅高架下の建物等を賃貸している。また、会社所有の鈴蘭台社宅の跡地等において駐車場経営を行っている。

(4) 経営状況及び財政状況

経営状況は、第1表のとおりであり、財政状況は第2表のとおりである。なお、消費税処理は税抜処理である。

第1表 比較損益計算書

(単位 金額：千円)

科 目	平成24年度		平成23年度		対前年度 増減	対前年度 増減率
	金額	構成 比率	金額	構成 比率		
営業収益(a)	2,320,884	99.4	2,117,940	98.6	202,944	9.6
鉄道線路使用料収入	1,530,283	65.6	1,498,497	69.8	31,786	2.1
神戸高速線	880,000	37.7	880,000	41.0	0	0.0
北神急行線	650,283	27.9	618,497	28.8	31,786	5.1
運輸雑収入	790,601	33.9	619,443	28.8	171,158	27.6
駅賃貸付料	701,400	30.1	512,421	23.9	188,979	36.9
土地物件貸付料	78,793	3.4	81,452	3.8	2,659	3.3
駐車場収入等	10,408	0.4	25,570	1.2	15,162	59.3
営業外収益	12,859	0.6	29,762	1.4	16,903	56.8
受取利息及び配当金	2,675	0.1	2,898	0.1	223	7.7
その他の収益	10,184	0.4	26,864	1.3	16,680	62.1
当期収益合計(A)	2,333,743	100.0	2,147,702	100.0	186,041	8.7
営業費用(b)	2,035,653	79.0	2,052,551	79.8	16,898	0.8
運送営業費	93,992	3.6	85,548	3.3	8,444	9.9
一般管理費	142,846	5.5	136,920	5.3	5,926	4.3
諸税	207,290	8.0	229,072	8.9	21,782	9.5
神戸高速線	95,579	3.7	109,207	4.2	13,628	12.5
北神急行線	24,165	0.9	24,968	1.0	803	3.2
駅賃貸・施設使用料	87,547	3.4	94,897	3.7	7,350	7.7
減価償却費	1,591,525	61.7	1,601,010	62.2	9,485	0.6
神戸高速線	663,155	25.7	818,504	31.8	155,349	19.0
北神急行線	365,261	14.2	365,282	14.2	21	0.0
駅賃貸・施設使用料	563,109	21.8	417,224	16.2	145,885	35.0
営業外費用	541,826	21.0	519,373	20.2	22,453	4.3
支払利息	507,341	19.7	519,353	20.2	12,012	2.3
神戸高速線	240,106	9.3	267,706	10.4	27,600	10.3
北神急行線	204,333	7.9	206,192	8.0	1,859	0.9
三宮駅設備	62,901	2.4	45,455	1.8	17,446	38.4
その他の費用	34,485	1.3	20	0.0	34,465	ほぼ皆増
北神急行線借換手数料	31,168	1.2	-	0.0	31,168	皆増
その他	3,317	0.1	20	0.0	3,297	ほぼ皆増
当期費用合計(B)	2,577,479	100.0	2,571,923	100.0	5,556	0.2
経常損益(C=A-B)	243,736	-	424,221	-	180,485	42.5
特別利益(D)	3,559,156	-	5,652,165	-	2,093,009	37.0
阪神三宮固定資産圧縮分	3,073,497	-	5,594,503	-	2,521,006	45.1
阪高交差部工事固定資産圧縮分	259,878	-	-	-	259,878	皆増
阪神三宮駅及び甲子園駅事務費等	32,054	-	57,624	-	25,570	44.4
固定資産売却益	193,726	-	38	-	193,688	ほぼ皆増
特別損失(E)	3,333,376	-	5,594,787	-	2,261,411	40.4
阪神三宮固定資産圧縮分	3,073,497	-	5,594,503	-	2,521,006	45.1
阪高交差部工事固定資産圧縮分	259,878	-	-	-	259,878	皆増
固定資産売却損	-	-	284	-	284	100.0
税引前当期純損益(F=C+D-E)	17,956	-	366,843	-	348,887	95.1
法人税、住民税及び事業税(G)	1,004	-	1,704	-	700	41.1
当期純損益(H=F-G)	18,960	-	368,547	-	349,587	94.9
前期繰越損失(I)	2,895,852	-	2,527,305	-	368,547	14.6
当期未処理損失(J=H+I)	2,914,812	-	2,895,852	-	18,960	0.7
営業収支比率(a/b×100)	114.0	-	103.2	-	10.8	10.5
経常収支比率(A/B×100)	90.5	-	83.5	-	7.0	8.4

第 2 表 比較貸借対照表

(単位 金額：千円)

科 目	平成 24 年度 末		平成 23 年度 末		対 前 年 度 減 増	対 前 年 度 増 減 率
	金 額	構 成 比 率	金 額	構 成 比 率		
資 産	55,631,523	100.0	54,191,457	100.0	1,440,066	2.7
流 動 資 産	3,903,131	7.0	2,295,014	4.2	1,608,117	70.1
1 現 金 及 び 預 金	1,504	0.0	1,382	0.0	122	8.8
2 未 収 金	3,505,531	6.3	2,132,247	3.9	1,373,284	64.4 *1
3 未 収 収 入 益	22,961	0.0	16,118	0.0	6,843	42.5
4 未 収 消 費 税 等	131,485	0.2	46,544	0.1	84,941	182.5
5 短 期 貸 付 金	240,936	0.4	88,876	0.2	152,060	171.1 *2
6 貯 蔵 品	185	0.0	185	0.0	0	0.0
7 前 払 費 用	476	0.0	734	0.0	258	35.1
8 そ の 他 の 流 動 資 産	54	0.0	8,927	0.0	8,873	99.4
固 定 資 産	51,728,393	93.0	51,896,443	95.8	168,050	0.3
1 鉄 道 事 業 固 定 資 産	40,733,486	73.2	41,850,145	77.2	1,116,659	2.7
(1) 神 戸 高 速 線	14,207,876	25.5	14,959,273	27.6	751,397	5.0
(2) 北 神 急 行 線	26,525,611	47.7	26,890,872	49.6	365,261	1.4
2 そ の 他 の 固 定 資 産	9,792,102	17.6	8,877,587	16.4	914,515	10.3
(1) 阪神三宮等の駅設備(賃貸分)	9,791,451	17.6	8,851,065	16.3	940,386	10.6
(2) 駐 車 場 設 備 , そ の 他 土 地	651	0.0	26,522	0.0	25,871	97.5
3 建 設 仮 勘 定	1,175,000	2.1	1,143,246	2.1	31,754	2.8 *3
4 投 資 そ の 他 の 資 産	27,805	0.0	25,465	0.0	2,340	9.2
(1) 関 係 会 社 株 式	13,085	0.0	13,085	0.0	0	0.0
(2) 投 資 有 価 証 券	14,669	0.0	12,130	0.0	2,539	20.9
(3) 長 期 前 払 費 用 等	50	0.0	250	0.0	200	80.0
負 債 及 び 純 資 産 の 部	55,631,523	100.0	54,191,457	100.0	1,440,066	2.7
負 債	56,042,674	100.7	54,585,284	100.7	1,457,390	2.7
流 動 負 債	6,716,453	12.1	7,441,935	13.7	725,482	9.7
1 短 期 借 入 金	1,285,677	2.3	3,580,836	6.6	2,295,159	64.1 *4
2 未 払 金	4,874,654	8.8	3,121,411	5.8	1,753,243	56.2 *5
3 未 払 費 用	78,228	0.1	58,810	0.1	19,418	33.0
4 未 払 法 人 税 等	5,581	0.0	3,492	0.0	2,089	59.8
5 預 り 金	470,561	0.8	675,754	1.2	205,193	30.4 *6
6 前 受 金	70	0.0	70	0.0	0	0.0
7 前 受 収 益	491	0.0	402	0.0	89	22.1
8 賞 与 引 当 金	1,190	0.0	1,161	0.0	29	2.5
固 定 負 債	49,326,221	88.7	47,143,348	87.0	2,182,873	4.6
1 長 期 借 入 金	42,824,912	77.0	40,800,786	75.3	2,024,126	5.0
(1) 金 融 機 関 借 入 金	14,122,165	25.4	14,181,685	26.2	59,520	0.4
(2) 阪神三宮駅改良事業借入金	2,542,278	4.6	2,193,486	4.0	348,792	15.9
(3) 北神急行線取得借入金	26,160,469	47.0	24,425,616	45.1	1,734,853	7.1 *7
2 預 り 預 託 金	6,441,658	11.6	6,282,578	11.6	159,080	2.5 *8
3 繰 延 税 金 負 債	1,443	0.0	539	0.0	904	167.7
4 そ の 他 の 固 定 負 債 (預 り 保 証 金)	58,208	0.1	59,445	0.1	1,237	2.1
純 資 産	411,150	0.7	393,826	0.7	17,324	4.4
株 主 資 本	413,762	0.7	394,802	0.7	18,960	4.8
1 資 本 金	2,000,000	3.6	2,000,000	3.7	0	0.0
2 利 益 剰 余 金	2,413,762	4.3	2,394,802	4.4	18,960	0.8
(1) 利 益 準 備 金	81,050	0.1	81,050	0.1	0	0.0
(2) 別 途 積 立 金	420,000	0.8	420,000	0.8	0	0.0
(3) 繰 越 利 益 剰 余 金	2,914,812	5.2	2,895,852	5.3	18,960	0.7
(うち当期純損失)	(18,960)	(0.0)	(368,547)	(0.7)	(349,587)	(94.9)
評 価 ・ 換 算 差 額 等	2,612	0.0	976	0.0	1,636	167.6
1 そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	2,612	0.0	976	0.0	1,636	167.6

*1 平成24年度の阪神三宮駅改良事業に係る補助金(2,528,000千円)

及び阪神甲子園駅改良事業に係る補助金(340,000千円)、預託金(552,500千円)等を計上

*2 株式会社阪急阪神フィナンシャルサポートに対するキャッシュマネジメントシステム預け金を計上

*3 阪神甲子園駅改良事業(H23・H24)、阪神三宮駅改良事業(H23)を計上

*4 長期借入金の1年以内返済分を計上

*5 平成24年度の阪神三宮駅改良事業費(3,981,600千円)及び甲子園駅改良事業費(892,500千円)等を計上

*6 平成23・24年度の阪神甲子園駅改良事業補助金(470,000千円)等を計上

*7 借入の残高は、阪急電鉄 18,260,469千円、兵庫県 5,000,000千円、神戸市 2,900,000千円

*8 駅改良事業に係る民間鉄道会社(阪神・山陽・神鉄)からの長期借入金(金利は0パーセント)を計上

5 監査の結果

(1) 経営に関する事項について（第1表参照）

当年度の当期収益は23億3,374万円、当期費用は25億7,747万円で、経常損益は2億4,373万円の損失となっている。

当期収益は前年度に比べ1億8,604万円（8.7%）増加している。また、当期費用も前年度に比べ555万円（0.2%）増加している。

当期収益の増加が当期費用の増加を上回っていることから、経常損益は前年度に比べ1億8,048万円（42.5%）増加している。

特別利益の主な内訳は、阪神三宮駅の改良工事に係る国・兵庫県・本市の補助金収入や土地売却等であり、特別損失の主な内訳は、阪神三宮駅の改良工事など補助事業等の完了に伴う固定資産圧縮損である。

経常損益に特別損益等を加えた当期純損益は1,896万円の損失で、当期末処理損失は29億1,481万円となっている。

なお、神戸高速線は、平成22年10月に策定した40年間の長期収支計画（国土交通省認可）に基づいて第2種鉄道事業者から定額の線路使用料を収受しており、同計画では支出の大部分を占める減価償却費及び支払利息の漸減に伴い、平成33年度には単年度収支がプラスに転じ、平成61年度には約29億円の繰越利益が見込まれている。

また、北神急行電鉄から線路使用料を収受する北神急行線事業、国の補助金等を活用した駅改良事業については、いずれも会社の収支に影響を及ぼさない事業形態となっている。

事業面では、第3種鉄道事業者として神戸高速線、北神急行線の鉄道事業を行うなど設立の目的に沿って運営がなされているものと認められた。

補助事業についても、補助金の交付目的を達成しているものと認められた。また、貸付についても、貸付契約どおり貸付金の約4割が償還されており、特に問題は認められなかった。

(2) 財務に関する事項について（第2表参照）

当年度末の資産は556億3,152万円で、阪神三宮駅改良事業に係る補助金の未収金等の増に伴い前年度末に比べ14億4,006万円（2.7%）増加しており、神戸高速線、北神急行線及び駅設備などの固定資産が93.0%を占めている。負債は560億4,267万円で、阪神三宮駅改良事業に係る工事費の未払金等の増に伴い前年度末に比べ14億5,739万円（2.7%）増加しており、長期借入金などの固定負債が88.7%を占めている。

純資産はマイナス4億1,115万円で、前年度末に比べ1,732万円（4.4%）減少している。

なお、神戸高速線事業、北神急行線事業、駅改良事業の長期借入金等については、当該資産に係る減価償却相当額を計画的に償還している。

(3) 監査の結果及びまとめ

会社の出納その他の事務については、適正に処理されていると認められた。

神戸高速線事業は長期収支計画で今後収支改善が見込まれ、北神急行線事業、駅改良事業は会社の経営に影響を及ぼさない事業形態をとっており、また長期借入金については減価償却相当額を計画的に償還しているが、引き続き会社を取り巻く社会経済状況の変化に留意する必要がある。

今後とも第3種鉄道事業者として、神戸高速線、北神急行線を第2種鉄道事業者に賃貸することで、京阪神と播磨・西北神地区、さらには北神・北摂地区の鉄道輸送を維持し、地域経済の発展に引き続き寄与されることを希望する。

凡 例

- 1 文中で用いる金額は、原則として千円の位以下を省略し、万円単位で表示している。
- 2 各表中の金額は、原則として百円の位を四捨五入し、千円単位で表示している。したがって合計と内訳の計が一致しない場合がある。
- 3 各表中の比率は、百分率で表示し、小数点以下第2位を四捨五入している。したがって合計と内訳の計が一致しない場合がある。
- 4 各表中の符号の用法は、次のとおりである。
 - 「0」及び「0.0」----- 該当数値はあるが、単位未満のもの。
対前年増減額及び率の場合は、零を含む。
 - 「-」----- 該当数値なし、算出不能又は無意味のもの。
 - 「ほぼ皆増」----- 増加率が1,000%以上のもの。
- 5 文中及び各表中でいう消費税とは「消費税」および「地方消費税」をいう。